

◆『Intelligence』購読会員の皆さまへ：ニュースレターNo.29 (2015年7月号)◆

東京では梅雨明けが宣言されましたが、蒸し暑さの続く向暑の折、皆さまはいかがお過ごしでしょうか。さて、『Intelligence』15号はお読み頂けましたでしょうか。次号16号の投稿原稿の締め切りは、2015年9月末となっております。ふるってご投稿下さい。また、20世紀メディア研究会は9月26日、10月31日に開催予定ですので、こちらも出席賜れば幸いです。ご愛読の会員の皆さまには、ニュースレターとともに、「Intelligence」会員専用ウェブサイト <http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html> また、会員向けブログとあわせてご覧いただければ幸いです。皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしております。

【第94回20世紀メディア研究会】(6月27日(土)午後2時半～5時半)

・曲揚(早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程三年)：「日中戦争期の天津における日本の宣伝工作—市政府機関誌『津津月刊』の分析から」は、1942年から43年に天津で発行された天津市政府機関誌『津津月刊』の分析を通じて、当時の天津における中国語雑誌でどのような日本側の宣伝工作が行われていたのかを論じて下さいました。

・河野通之(NPO法人インテリジェンス研究所理事)：「【プランゲ文庫】～“読み歩き”そして“寄り道”の楽しみ～テクノインテリジェンス・コーナーの設置」は、プランゲ文庫の新聞雑誌記事データベースを活用して、タグチメソッド、新幹線におけるスラブ構造用材料の貢献、キリンビールの物流革命におけるコンテナとパレットの開発、自動車におけるPPによる軽量化、セルロイドの歴史、立体ディスプレイ、風船爆弾など、技術開発と工学に関係した歴史的な話をエピソード豊かに話して下さいました。

・河合隆史(早稲田大学理工学術院教授)：「立体視(3D)映像—過去と現代をつなぐテクノロジー」は、“最古の最先端メディア”という二眼識立体映像について、過去何回か周期的なブームになったことを指摘し、文化遺産としての3D化、また4K高品質画像での文化遺産の3D化に取り組んできた実績を紹介し、ハリウッド映画では現在、2Dと3Dの両方が並行して制作されているのに対し、日本では映画でもテレビでも3D用の作品があまり作られない現状などを論じて下さいました。

※ なお、研究会当日に配布されたレジュメは、会員ホームページにアップされています。<http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html> をご覧下さい。

●次回の20世紀メディア研究会は、7月25日(土)で、井原あやさん、ダグラス・フォードさん、青木富貴子さんがご報告の予定です。その後は、9月26日(土)、10月31日(土)を予定しております。なお、NPOインテリジェンス研究所による諜報研究会は10月10日(土)に開催予定です。また、ご報告御希望の方は、20世紀メディア研究所事務所 m20th@list.waseda.jp まで、メールにてご一報下さい。

【気になる新著紹介】

メディアなどでもたびたび言及されているが、今年は戦後70年である。一方、東アジアでは「歴史」が政治化している。歴史をめぐる問題が、国家間関係での対立を引き起こしているだけでなく、それぞれの国民同士のあいだで感情的な摩擦を生じさせる大きな要因になっている。

こうした状況のなかで、いまいちど政治化された「歴史」ではない歴史を捉え返すための興味深い本が、相次いで刊行されている。東郷和彦・波多野澄雄『歴史問題ハンドブック』(岩波書店)を皮切りに、大沼保昭ほか『「歴史認識」とは何か』(中公新書)、細谷雄一『歴史認識とは何か: 日露戦争からアジア太平洋戦争まで』(新潮選書)などは、歴史問題を考える際の重要な手がかりとなろう。また、国交正常化50年を迎える日韓関係

についても、注目すべき関連書籍が刊行されている。吉澤文寿『日韓関係 1965』高文研は、日韓国交正常化の意味と解決された／されなかった問題を検討しながら、今後の日韓関係の方向性を示しているものとして興味深い。

【コラム：「記念日」の季節と日中関係】

日中は、これから二ヶ月にわたって「記念日」の季節を迎える。8月1日の「人民解放軍記念日」、8月15日の「終戦記念日」、9月2日の「降伏文書調印」、9月3日の「抗日戦争勝利記念日」、9月11日の「尖閣諸島国有化」、9月18日の「満州事変」など、日中関係において「話題」が提供されそうな記念日が、オンパレードである。なかでも今年の9月3日には、北京で抗日戦争勝利を祝う大規模な軍事パレードの開催が予定されており、安倍首相も招待されている。安倍首相が9月3日に習近平国家主席と首脳会談を実施するのか、あるいは、その前後に行われるのかへの関心が高まっている。

だが、ここでは9月3日という日付に注目してみたい。日本の場合、戦争の〈おわり〉は8月15日とされている。一方、中国が抗日戦争の〈おわり〉と位置づける日付は9月3日である。日中間において、戦争の〈おわり〉をめぐる日付にはズレが生じている。このズレは、いったい何を意味しているのか。「記念日」の季節に、ゆっくりと考えてみたい。

[7月20日付文責：小林聡明]